



I 第37週の発生動向 (2025/9/8~2025/9/14)

1. 水痘については、東津軽+青森市保健所管内の注意報は解除となりました。
2. 百日咳については、複数の保健所管内で患者が報告されています。手洗い等の基本的な感染対策の徹底をお願いします。
3. 新型コロナウイルス感染症については、県全体の定点当たりの報告数は減少していますが、報告数の多い状態が続いています。インフルエンザの予防もかねて、「手洗い・手指消毒」、「咳エチケット」、「室内の換気」等の基本的な感染対策の徹底をお願いします。

※現在、国及び国立健康危機管理研究機構が警報・注意報の基準値について確認を進めているところですが、県の週報に記載する発生動向では、当面の間、従前の基準値を用いて注意喚起を行います。

<感染症の窓>

今週のテーマは「つつが虫病」です。最終ページに掲載しています。

II 第37週五類定点把握対象疾患

※記載データは、速報値です。

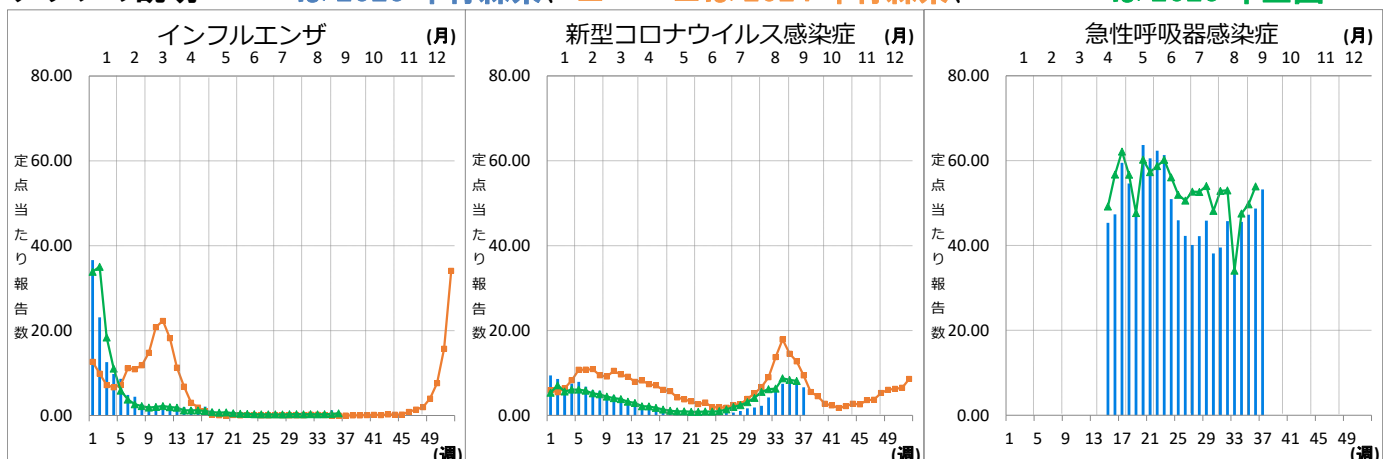
青森県内の保健所管内、定点(医療機関)数、警報・注意報については青森県の感染症発生状況 TOP ページをご覧ください。

は警報、は注意報。「空欄」：患者報告無し。

		東青 (東津軽+ 青森市保健所)		中南 (中南保健所)		三八 (三戸+ 八戸市保健所)		西北 (西北保健所)		上北 (上北保健所)		下北 (下北保健所)		青森県計		前週 からの 増減
		数	人/定点	数	人/定点	数	人/定点	数	人/定点	数	人/定点	数	人/定点	数	人/定点	
急性 呼吸器 感染症	インフルエンザ	5	0.45	6	0.60	1	0.10	8	1.33	4	0.44			24	0.46	-14
	新型コロナウイルス感染症	80	7.27	63	6.30	73	7.30	35	5.83	58	6.44	36	6.00	345	6.63	-69
	急性呼吸器感染症	820	74.55	495	49.50	412	41.20	345	57.50	416	46.22	279	46.50	2767	53.21	235
小児科	RSウイルス感染症			4	0.67	17	2.43	1	0.20	2	0.33	3	0.75	27	0.79	18
	咽頭結膜熱	1	0.17	5	0.83	2	0.29	2	0.40					10	0.29	6
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	2	0.33	10	1.67	7	1.00	3	0.60	3	0.50	2	0.50	27	0.79	6
	感染性胃腸炎	21	3.50			37	5.29	26	5.20					84	2.47	-22
	水痘	5	0.83					2	0.40					7	0.21	-7
	手足口病	2	0.33	11	1.83			2	0.40					15	0.44	-3
	伝染性紅斑	1	0.17			2	0.29	1	0.20					4	0.12	0
	突発性発しん	3	0.50	2	0.33	5	0.71	2	0.40	4	0.67	1	0.25	17	0.50	2
	ヘルパンギーナ	8	1.33	11	1.83	10	1.43	1	0.20					30	0.88	-3
	流行性耳下腺炎	1	0.17											1	0.03	-1
眼科	急性出血性結膜炎															-1
	流行性角結膜炎									3	1.50			3	0.30	1
基幹	感染性胃腸炎(ロタウイルス)															0
	クラミジア肺炎															0
	細菌性髄膜炎															0
	マイコプラズマ肺炎			1	1.00	1	1.00	4	4.00	4	4.00	9	9.00	19	3.17	5
	無菌性髄膜炎					1	1.00							1	0.17	1

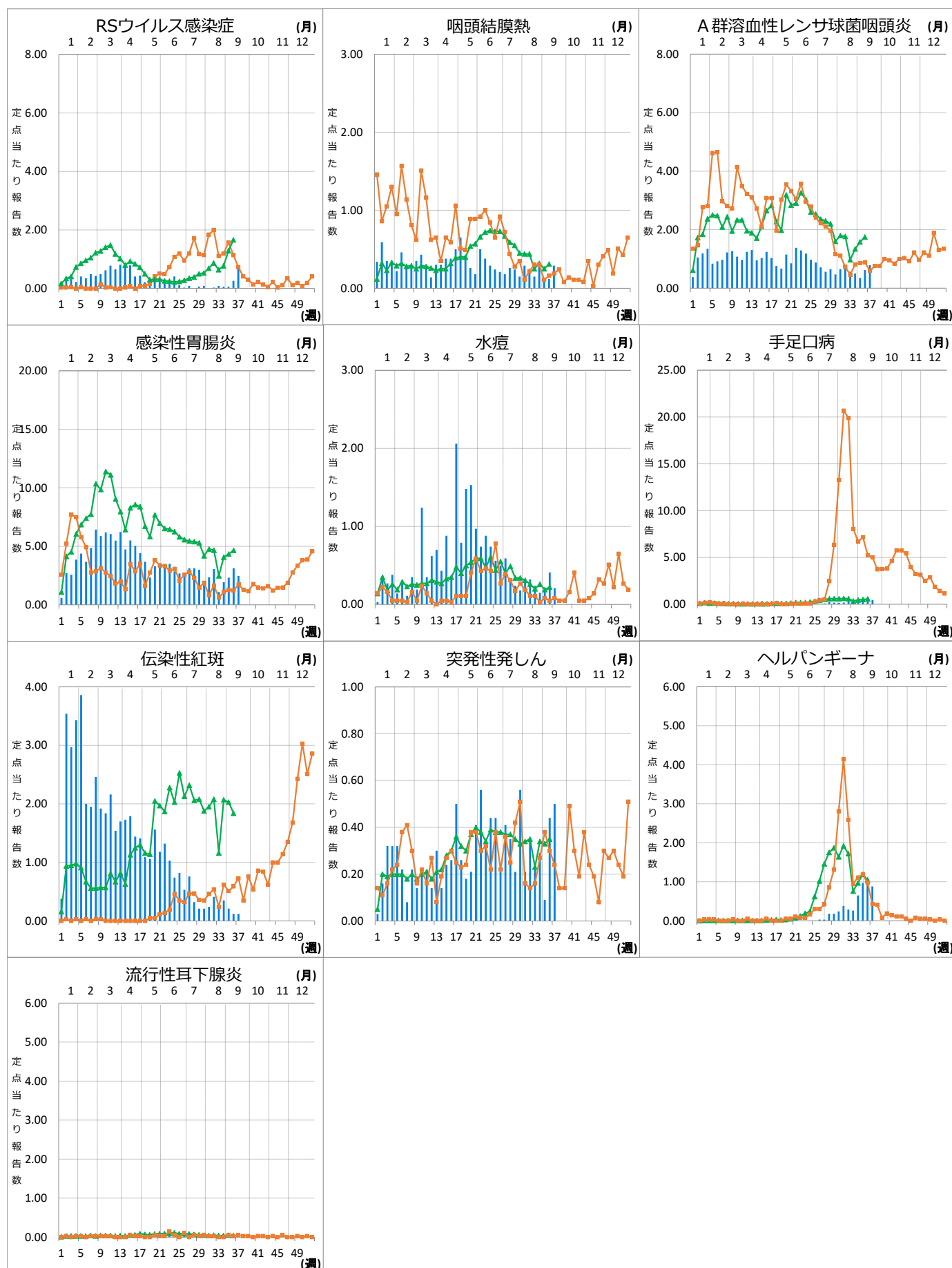
III 定点把握対象疾患週別推移 (急性呼吸器感染症定点) (2025年第37週、ただし全国は前週)

グラフの説明 〓は2025年青森県、■は2024年青森県、▲は2025年全国



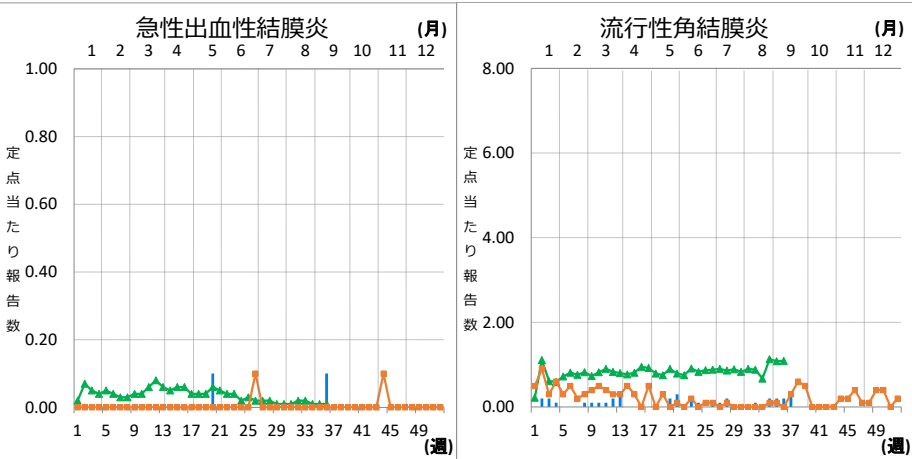
Ⅳ 定点把握対象疾患週別推移（小児科定点）（2025 年第 37 週、ただし全国は前週）

グラフの説明  —■— は 2025 年青森県、■—■ は 2024 年青森県、▲—▲ は 2025 年全国



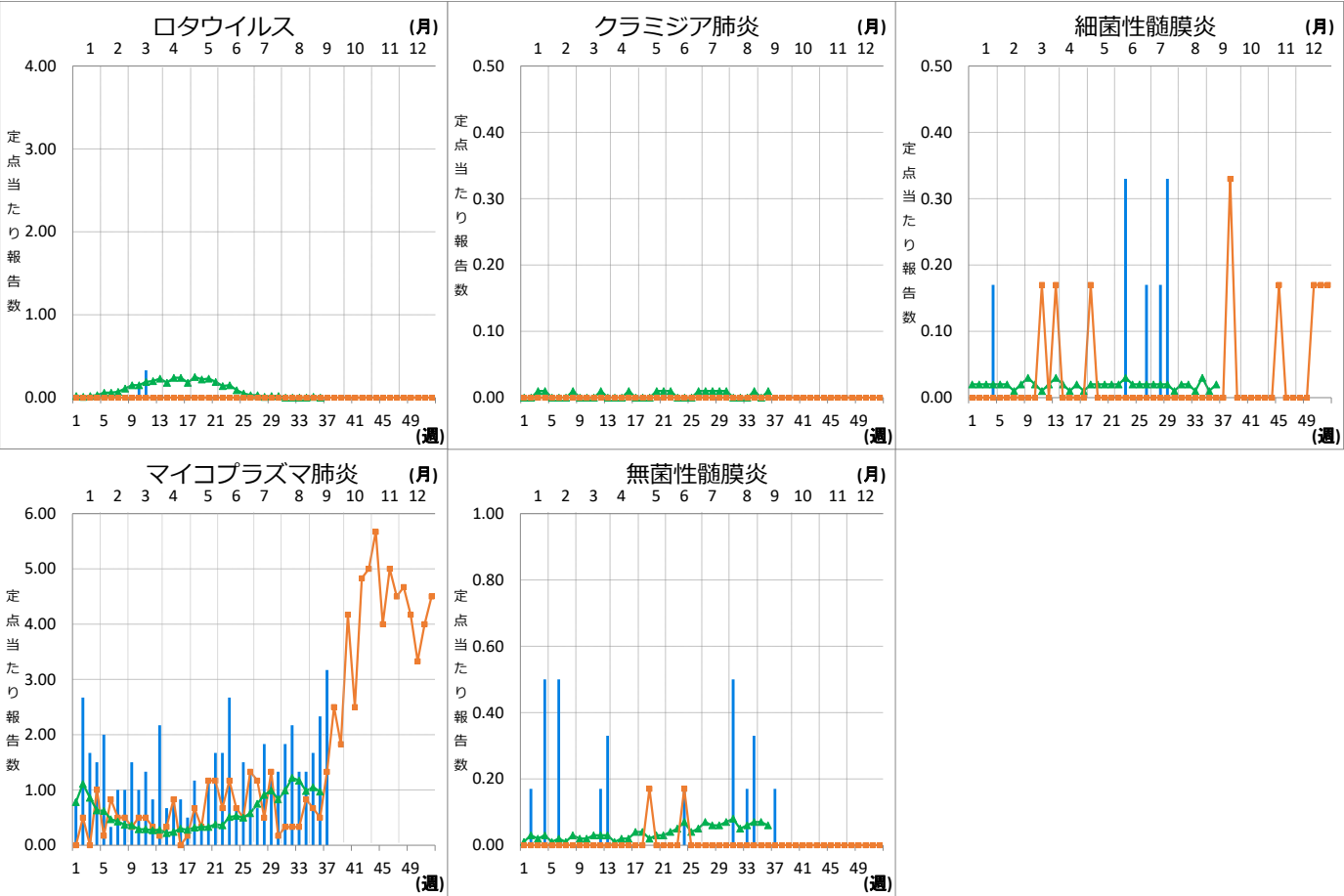
V 定点把握対象疾患週別推移（眼科定点）（2025 年第 37 週、ただし全国は前週）

グラフの説明👉**——は 2025 年青森県、■——■は 2024 年青森県、▲——▲は 2025 年全国**



VI 定点把握対象疾患週別推移（基幹定点）（2025 年第 37 週、ただし全国は前週）

グラフの説明👉**——は 2025 年青森県、■——■は 2024 年青森県、▲——▲は 2025 年全国**



Ⅶ 急性呼吸器感染症 (ARI) 病原体検出情報

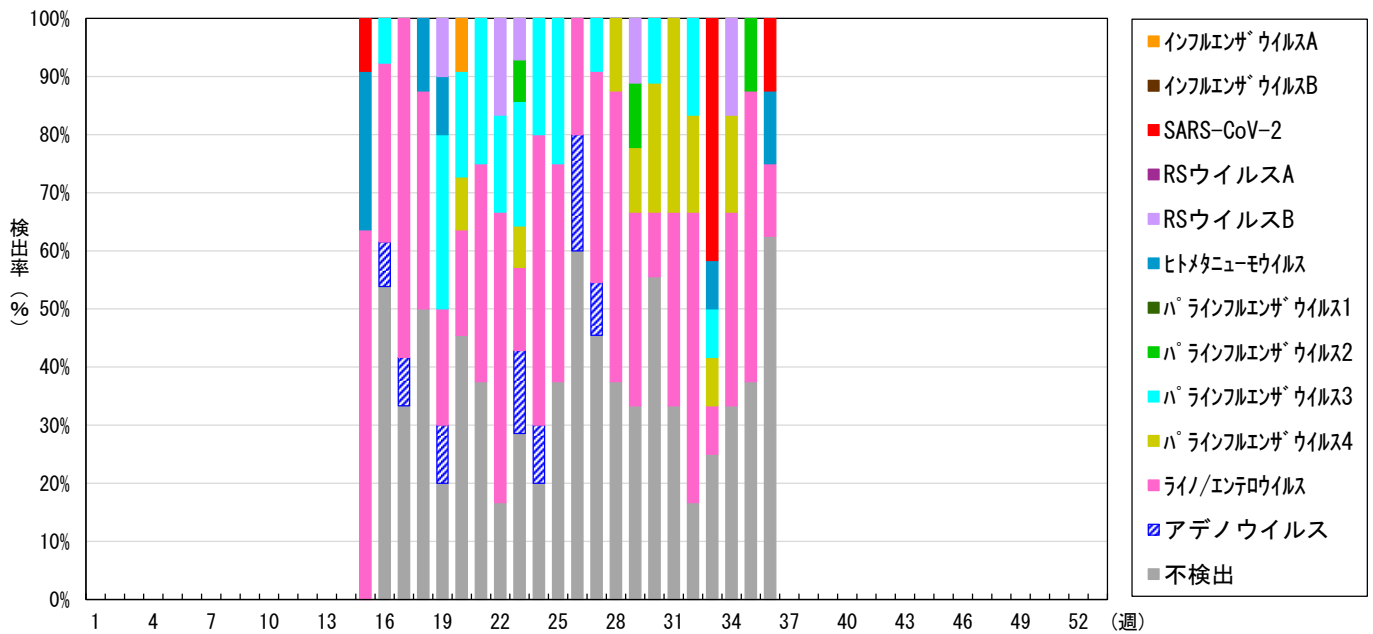
(1) 急性呼吸器感染症病原体定点からの提出検体数及び結果判明分 (2025 年第 30～37 週)

急性呼吸器感染症	2025年							
	30週	31週	32週	33週	34週	35週	36週	37週
提出検体数	9	6	6	12	5	8	7	9
インフルエンザウイルスA	0	0	0	0	0	0	0	
インフルエンザウイルスB	0	0	0	0	0	0	0	
SARS-CoV-2	0	0	0	5	0	0	1	
RSウイルスA	0	0	0	0	0	0	0	
RSウイルスB	0	0	0	0	1	0	0	
ヒトメタニューモウイルス	0	0	0	1	0	0	1	
パラインフルエンザウイルス1	0	0	0	0	0	0	0	
パラインフルエンザウイルス2	0	0	0	0	0	1	0	
パラインフルエンザウイルス3	1	0	1	1	0	0	0	
パラインフルエンザウイルス4	2	2	1	1	1	0	0	
ライノ/エンテロウイルス	1	2	3	1	2	4	1	
アデノウイルス	0	0	0	0	0	0	0	
不検出	5	2	1	3	2	3	5	
検査待ち	0	0	0	0	0	0	0	9

※第34週に提出された検体のうち、RSウイルスB及びライノ/エンテロウイルスが重複して検出されたものが1検体ありました。

※第36週に提出された検体のうち、ライノ/エンテロウイルス及びSARS-CoV-2が重複して検出されたものが1検体ありました。

(2) 検出された病原体の週別推移 (2025 年第 15 週～)



Ⅷ 全数把握対象疾患発生状況（第 37 週）

- ・結核(二類感染症) : 中南 1 人、八戸市 2 人 (2025 年計: 80 人)
- ・腸管出血性大腸菌感染症(三類感染症) : 上北 2 人 (2025 年計: 29 人)
- ・レジオネラ症(四類感染症) : 青森市 1 人 (2025 年計: 7 人)
- ・百日咳(五類感染症)
: 東津軽 1 人、青森市 1 人、中南 2 人、八戸市 1 人、上北 3 人、下北 1 人 (2025 年計: 703 人)

Ⅸ 保健所管内別全数把握対象疾患発生状況（2025 年第 34 週～2025 年第 37 週）

週	東青 (東津軽保健所+ 青森市保健所)	中南 (中南保健所)	三八 (三戸保健所+ 八戸市保健所)	西北 (西北保健所)	上北 (上北保健所)	下北 (下北保健所)
34	結核1人 百日咳1人	結核2人 百日咳12人	結核1人 百日咳2人	百日咳1人	百日咳1人	
35	結核1人 百日咳5人	結核1人 腸管出血性大腸菌感 染症1人 つつが虫病1人 百日咳4人	結核1人 腸管出血性大腸菌感 染症2人 百日咳5人	百日咳1人	百日咳1人	結核1人
36	百日咳2人	結核1人 百日咳5人	結核2人 百日咳3人			百日咳1人
37	レジオネラ症1人 百日咳2人	結核1人 百日咳2人	結核2人 百日咳1人		腸管出血性大腸菌感 染症2人 百日咳3人	百日咳1人

第 36 週に、八戸市保健所管内で百日咳の届出が 1 件ありましたので追加しました。

X 全数把握対象疾患発生状況（全国-青森県）（注：発生状況は速報値であり、国内で届出のあった疾患のみを掲載しています）

全国（2025 年第 1 週～第 36 週までの累計）										
分類	二類	三類	三類	三類	三類	三類	四類	四類	四類	四類
疾病名	結核	コレラ	細菌性赤痢	腸管出血性大腸菌感染症	腸チフス	パラチフス	E型肝炎	A型肝炎	エキノкокクス症	エムボックス
累積報告数	9725	3	39	2610	22	7	414	93	23	3
分類	四類	四類	四類	四類	四類	四類	四類	四類	四類	四類
疾病名	オウム病	回帰熱	コクシジオイデス症	重症熱性血小板減少症候群	ダニ媒介脳炎	チクングニア熱	つつが虫病	デング熱	日本紅斑熱	ブルセラ症
累積報告数	8	6	6	152	2	18	105	110	418	1
分類	四類	四類	四類	四類	四類	四類	五類	五類	五類	五類
疾病名	ボツリヌス症	マラリア	ライム病	類鼻疽	レジオネラ症	レプトスピラ症	アメーバ赤痢	ウイルス性肝炎	カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症	急性弛緩性麻痺
累積報告数	1	18	16	1	1584	20	317	167	888	22
分類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類
疾病名	急性脳炎	クリプトスピリジウム症	クロイツフェルト・ヤコブ病	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	後天性免疫不全症候群	ジアルジア症	侵襲性インフルエンザ菌感染症	侵襲性髄膜炎菌感染症	侵襲性肺炎球菌感染症	水痘（入院例）
累積報告数	374	19	123	1004	576	25	506	62	2616	481
分類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類		
疾病名	梅毒	播種性クリプトコックス症	破傷風	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	百日咳	風しん	麻しん	薬剤耐性アシネトバクター感染症		
累積報告数	9631	114	66	63	74724	10	225	5		

青森県（2025 年第 1 週～第 37 週までの累計）

分類	二類	三類	四類	四類	四類	四類	五類	五類	五類	五類
疾病名	結核	腸管出血性大腸菌感染症	E型肝炎	つつが虫病	日本紅斑熱	レジオネラ症	アメーバ赤痢	カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症	急性脳炎	クロイツフェルト・ヤコブ病
累積報告数	80	29	1	15	1	7	1	6	1	3
分類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類			
疾病名	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	後天性免疫不全症候群	侵襲性インフルエンザ菌感染症	侵襲性肺炎球菌感染症	梅毒	破傷風	百日咳			
累積報告数	5	1	3	14	16	1	703			

XI 病原体検出情報 ※（ ）内は、検査材料及び検体採取日報告はありませんでした。

XII 社会福祉施設等における感染性胃腸炎（疑い含む）の発生状況

「社会福祉施設等における感染症等発生時に係る報告について」（平成18年2月22日付け厚生労働省健康局長、医薬食品局長、雇用均等・児童家庭局長、社会・援護局長通知）に基づく、青森県内の社会福祉施設等における感染性胃腸炎（疑いを含む）の報告件数及び発症者数は次のとおりです。

2025 年第 37 週

報告週	施設種別	発症者数	管轄保健所
第37週	報告なし		

2025 年報告件数及び症者数

月(週)		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月				10月	11月	12月	計
施設種別		1-5週	6-9週	10-13週	14-17週	18-22週	23-26週	27-31週	32-35週	36週	37週	38週	39週	40-44週	45-48週	49-52週	(施設別)
介護・老人福祉関係施設	件数	1	4	4	4	1	0	0	0	0	0						14
	発症者数	7	70	69	78	11	0	0	0	0	0						235
児童・婦人関係施設等	件数	4	10	8	7	1	3	1	1	0	0						35
	発症者数	74	228	136	128	25	50	22	13	0	0						676
障がい関係施設	件数	0	2	2	1	1	0	1	0	0	0						7
	発症者数	0	37	25	10	5	0	11	0	0	0						88
その他施設	件数	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0						1
	発症者数	0	0	0	0	0	10	0	0	0	0						10
計(月別)	件数	5	16	14	12	3	4	2	1	0							57
	発症者数	81	335	230	216	41	60	33	13	0							1009

感染症の窓

つつが虫病は、つつが虫病リケッチアを保有するツツガムシ（ダニの一種）に刺されることによって発症する感染症です。ツツガムシに刺されてから5～14日の潜伏期の後、発熱、全身倦怠感、頭痛、リンパ節の腫脹などの風邪様症状と体幹部を中心に発疹がみられます。刺し口は脇の下など、皮膚の柔らかい隠れた部分に多くみられます。発熱、刺し口、発疹は主要3徴候とよばれ、およそ90%以上の患者にみられます。

青森県内における近年の月別報告数の推移は図のとおりです。本県では、4月から6月にかけて報告数が最も多くなりますが、7月以降も一定の報告があります。また、過去には1～3月にも患者報告があった年があり、1年を通じて罹患する可能性がありますので注意が必要です。

つつが虫病的予防にはワクチンはなく、ツツガムシの吸着を防ぐことが大切です。つつが虫病が多発する時期には、草むらや山林等には極力立ち入らないことが最も有効な予防策です。農作業や山菜取り等で草むらや山林等に立ち入る際には、長袖、長ズボン、長靴、手袋などを着用して素肌の露出は避け、忌避剤（有効成分ディート等）を適宜使用しましょう。また、作業後は、早めに入浴して体に付着したダニを洗い流すようにしましょう。

つつが虫病

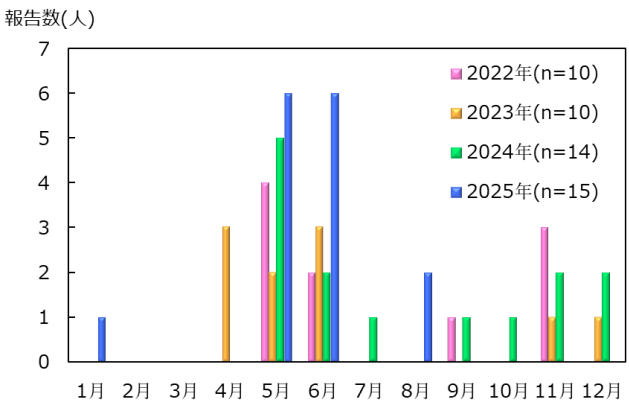


図 青森県における2022年以降のつつが虫病患者月別報告数

○詳しい情報はこちらをご覧ください。
👉 [つつが虫病\(国立健康危機管理研究機構 HP\)](#)

